

ともだち

ともだち

いるよ、

いっぱい

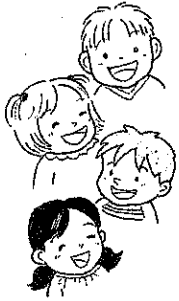
いるよ。

いちねんせいだよ、

みんな、みんな。

あっはっはっは、

いっぱい、いっぱい。



(光村図書 こくこ一年(上) かきくろま まじ・みちお)

なまえ



名前

た
け
の
こ
ぐ
ん
!

た
け
の
こ
が

ぐ
ん
!

せ
の
び
し
て

つ
ち
を
わ
っ
た
よ

あ
た
ま
に
き
ら
り

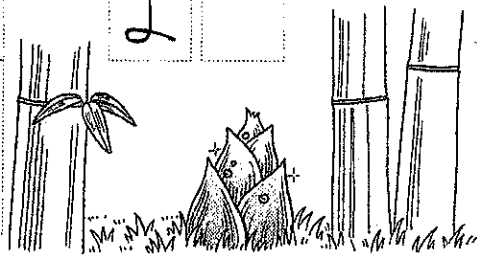
つ
ゆ
を
の
せ
て
る

あ
さ
の
お
ほ
し
さ
ん
に

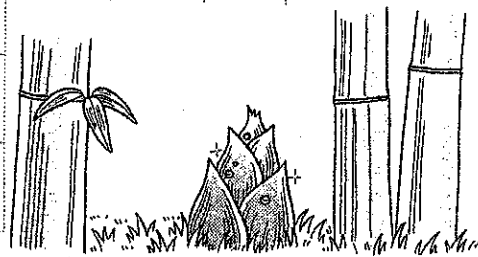
も
ら
っ
た
の
か
な

た
け
の
こ
の
び
ろ

ぐ
ん
!



名前



名前

山

うれしいときは

山をみる

どっしりすわった

山をみる

“しっかりやれよ”と

いうように

山はだまって

ぼくをみる

かなしいときも

山をみる

どっしりすわった

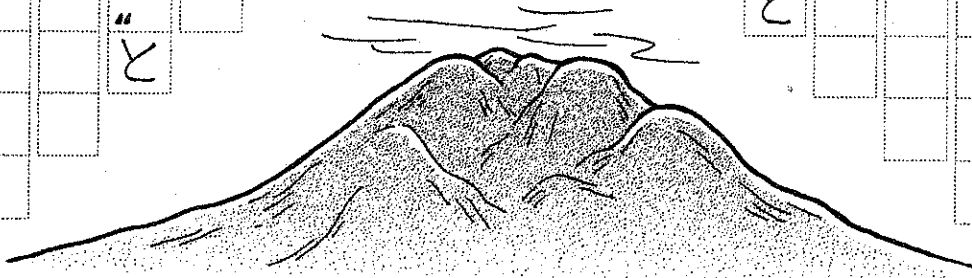
山をみる

“だいじょうぶだよ”と

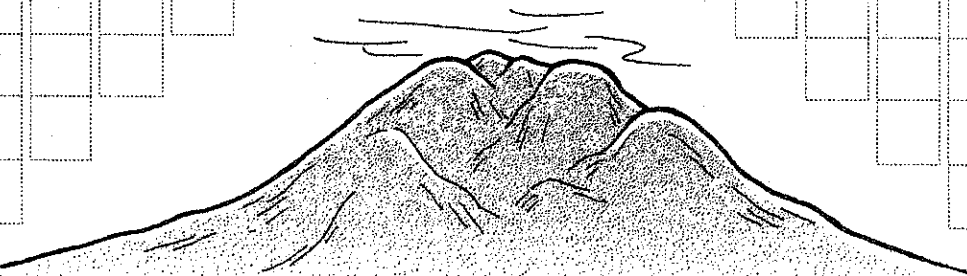
いうように

山はだまって

ぼくをみる



名前



名前

めがさめた

どうしたの？ 山

うす緑のようふくが ふるふる ゆれてるよ

おおい山よ！ なに ふるふるしてるの？

だってね くっくっく

雪どけみずが ちよろちよろしてさ

りすは もこもこするしさ

かえるは ごそごそ のねずみ かさこそ

みんな めがさめて あちこち うろちよろ

くっくっく くすぐったくてなあ

ひゃ もうたまらん！

あーっはっはっは

山がわらって 春がきた



名前



名前

さんちよう

山頂から

山にのぼると

海は天まであがってくる。

なだれおちるような若葉^{わかば}みどりのなか。

下の方でしずかに

かっこうがないている。

風に吹^ふかれて高いところにたつと

だれでもしぜんに世界のひろさをかんが

える。

ぼくは手を口にあてて

なにか下の方に向かって叫^{さけ}びたくなる。

五月の山は

きらきらと明るくまぶしい。

きみは山頂よりも上に

青い大きな弧^かをえがく

水平線を見たことがあるか。



名前



名前

あいたくて

だれかに あいたくて

なにかに あいたくて

生まれてきた

そんな気がするのだけれど

それが だれなのか なになのか

あえるのは いつなのか

おつかいの とちゅうで

迷ってしまった子どもみたい

とほうに くらえている

それでも 手のなかに

みえないことづけを

にぎりしめて いるような気がするから

それを手わたさなくちゃ

だから

あいたくて

